

第6学年1組 図画工作科 学習指導案

実施期間 令和〇年〇月
指導者 〇〇 〇〇

1 題材の構想

わたしはデザイナー 12さいの力で

題材終了後の 子どもの姿	板材を使って生活に役立つものをつくることを通して、材料や用具の特徴を捉え、形や色を工夫して表す力を身に付けている。6年間の学習のまとめとして、めあてと振り返りを大切にし、つくりだす喜びを味わっている。		
	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
題材の目標	①板材の特徴を生かして、形や色など造形的な視点をもとに作品をつくることのできる。 ②電動糸のこぎりや接着剤など用具の使い方を身につける。	①誰が、いつ、どんな場面で使っていくものなのか、具体的にイメージし、デザインすることができる。 ②どのようにつくっていくのか考え、完成までの見通しをもつことができる。	①主体的に表現活動に取り組み、板材の組み合わせや用具の効果などを試行錯誤しながら考え、よりよい工夫を見つけようとしている。
目標に向かうための手立て	○「3つのポイント」×「子どもが主体のICT」 【めあて】 「生活の中で役に立つ入れ物を自分らしくつくろう！」という課題を設定し、「どうすれば自分が表したいものをつくることのできるか？」という問いから、めあての共有へつなげるようにする。 【振り返り】 授業支援アプリを使い、毎時間の授業の終わりに作品の製作過程の写真と、学んだことを記録しておくことで、できたことを確認し、これからつくるもののイメージを膨らませる。さらに、完成までの見通しにつなげる。 【対話】 授業支援アプリで考えを共有できるようにしておき、友達の作品のよさや工夫を交流する場面、自分が困ったことを相談する場面を設定することで、意欲の向上や技法の理解などにつながるようにする。		
子どもの実態 32人	①画用紙を使って箱などをつくった経験はあるが、板材を組み合わせることは今回が初めてである。 ②電動糸のこぎりの扱いを怖がる児童が2人いる。	①12人が、「どんなものをつくるか、思いつくことが苦手である」と答えている。 ②思ったようにできずに困っても、自分からは相談しない児童が数人いる。	①友達の作品のよさを自分の作品に取り入れることをお互いに受容する児童が多い。しかし、2割の児童は真似をされることに抵抗がある。

題材の評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①板材の構成や仕組みから、バランスや奥行きを理解している。 ②電動のこぎりで直線、曲線に沿って板材を切ったり、釘や接着剤など用具を適切に使ったりしている。	①誰が、いつ、どんな場面で使っていくものなのか、用途をもとに、つくりたいものを発想している。 ②形や色などを考え、どのようにつくるか構想を練り、完成までの見通しをもつ。	①これまで学んだことを生かし、板材の組み合わせや用具の使い方などを、試行錯誤しながら工夫してつくっている。

指導と評価の計画（6時間取り扱い ●本時2/6）				
課題等	次	時	主たる学習活動	評価する内容と方法等
生活の中で役に立つ入れ物をつくらう。	1	1	○教科書の作品を鑑賞し、使う場面や用途を考え、アイデアスケッチを描く。	【主】 ①観察、ワークシート 【思】 ①観察、ワークシート
	2	1	●方眼用紙で実物大の模型をつくる。	【思】 ②作品、ワークシート
		1	○背面と底面を組み立てる。	【知】 ②観察、作品
		2	○木取り、切る、組み立てる工程を繰り返してつくる。	【知】 ①観察、作品 【主】 ①観察、作品
		1	○色や飾りを工夫して仕上げる。	【知】 ②作品、ワークシート

2 本時の授業計画

(1) 本時の目標

方眼用紙で模型をつくる活動を通して、具体的な作品のイメージをもつことができる。

(2) 展開

過程	時間	学習活動	○主な発問・指示 ・予想される子どもの反応	○教師の支援 ◎評価	備考 ・ICT 機器等
導入	5	1 前時を振り返り、本時のめあてを決める。	○アイデアスケッチをもとに、自分のイメージを具体的なものにしよう。	○お互いのアイデアスケッチを共有し、発想を広げるようにする。	・授業支援アプリ
		実物大の模型をつくって、完成した時のイメージをもとう。			
展開	35	2 方眼用紙で、つくりたいものを具体的な形にする。	○同じ大きさになるように方眼用紙でつくらう。 ・算数で立方体をつくったことがあるけど、同じように考えればいいよね。 ・ふたが開く箱にしたいな。紙だったらできるけど、板ではどうするのか。 ・隙間ができてしまった。長さを変えるとぴったりくっつくかな。	○板材と同じ大きさに方眼用紙を切って試しにつくることで、実際に使える板材と同じ分量を想定できるようにする。 ○完成時の大きさをイメージできるように、あまり時間をかけず、簡単に組み立てる程度とする。	・方眼用紙 ・はさみ ・セロハンテープ
		3 友達のよいアイデアがあれば、取り入れる方法を考える。	○友達の模型のよさを見つけよう。 ・この形すてきだな。自分も形を変えようかな。	◎【思】 ② つくりたいもののイメージを膨らませ、形や色、つくり方などの構想を練り、完成までの見通しをもっている。	
終末	5	4 次時への見通しをもつ。	○方眼用紙と板材にはどんな違いがあるだろうか。 ・板は一度決めたらやり直しが難しそうだな。もう一度、長さを確認しよう。 ○学んだことを記録しよう。	○板材でつくと難しそうなことを話し合うことで、次時への見通しをもたせる。	・授業支援アプリ

図画工作

3学年1組 図画工作科 学習指導案

実施期間 令和〇年〇月
指導者 〇〇〇〇

1 題材の構想

わたしはデザイナー 12さいの力

子どもが主体的に学ぶ	板材を使って生活に役立つものをつくる工夫して表す力を身に付けている。6歳児の切に、つくりだす喜びを味わっている。		
題材の目標	知識及び技能 ①板材の特徴を生かして、形や色など造形的な視点をもとに作品をつくることのできる。 ②電動糸のこぎりや接着剤など道具の使い方を身に付ける。	思考力 ①誰が、いつ、どのようにして、どのようにか考え、もつことのできる。	
目標に向かうための手立て	<p>○「3つのポイント」×「子どもが主体のICT」 【めあて】 「生活の中で役に立つ入れ物を自分らしくつくろう！」という課題を設定し、「どうすれば自分が表したいものをつくることのできるか？」という問いから、めあての共有へつなげるようにする。 【振り返り】 授業支援アプリを使い、毎時間の授業の終わりに作品の製作過程の写真と、学んだことを記録しておくことで、できたことを確認し、これからつくるもののイメージを膨らませる。さらに、完成までの見通しをつなげる。 【対話】 授業支援アプリで考えを共有できるようにしておき、友達の作品のよさや工夫を交流する場面、自分が困ったことを相談する場面を設定することで、意欲の向上や技法の理解などにつながるようにする。</p>		
子どもの実態	①画用紙を使って箱などをつくった経験はあるが、板材を組み合わせてつくことは今回が初めてである。 ②電動糸のこぎりの扱いが怖がる児童が2人いる。	①12人が、「どんなものをつくるか、思いつくことが苦手である」と答えている。 ②思ったようにできずに困っても、自分からは相談しない児童が数人いる。	①友達の作品のよさを自分の作品に取り入れることをお互いに受容する児童が多い。しかし、2割の児童は真似をされることに抵抗がある。

ポイント

目標に近づけるための手立て
児童の実態を題材の目標に近づけるための手立てを具体的に示す。「何のために」「何を」「どのように」手立てを打つのか、ICTを使うのかを示す。

ポイント

指導と評価の計画
指導計画と評価規準との整合性を図る。

課題等	次	時	主たる学習活動	評価する内容と方法等
入生	1	1	○教科書の作品を鑑賞し、使う場面や用途を考え、アイデアスケッチを描く。	【主】①観察、ワークシート 【思】①観察、ワークシート
		1	●方眼用紙で実物大の模型をつくる。	【思】②作品、ワークシート
				【知】②観察、作品
				【知】①観察、作品
				【主】①観察、作品
				【知】②作品、ワークシート

ポイント

教師の支援
「発想や構想を豊かにする活動」、「子どもが主体的になる活動」など、具体的な手立てを書く。

過程	時間	学習活動	○主な発問・指示 ・予想される子どもの反応	○教師の支援 ◎評価	備考 ・ICT 機器等
導入	5	1 前時を振り返り、本時のめあてを決める。	○アイデアスケッチをもとに、自分のイメージを具体的なものにしよう。	◎お互いのアイデアスケッチを共有し、発想を広げるようにする。	・授業支援アプリ
	35	2 方眼用紙で、つく	○同じ大きさになるように	◎板材と同じ大きさの方眼用紙を切って試しにつくることで、実際に使える板材と同じ分量を想定できるようにする。 ○完成時の大きさをイメージできるように、あまり時間をかけず、簡単に組み立てる程度とする。	・方眼用紙 ・はさみ ・セロハンテープ
終末	5	4 次時への見通しをもつ。	○方眼用紙と板材にはどんな違いがあるだろうか。 ・板は一度決めたらやり直しが難しそうだな。もう一度、長さを確認しよう。 ○学んだことを記録しよう。	◎【思】② つくりたいもののイメージを膨らませ、形や色、つくり方などの構想を練り、完成までの見通しをもっている。	・授業支援アプリ
			○方眼用紙で入れる方法を考える。 ・この形すてきだな。自分も形を変えようかな。	◎【思】① つくりたいもののイメージを膨らませ、形や色、つくり方などの構想を練り、完成までの見通しをもっている。	

ポイント

題材の評価規準

「題材の目標」を、児童と共有できる表現に書きかえる。

判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○この場で使った用途をもとに、何を発想している。 ○考え、どのようにつくり、完成までの見	①これまで学んだことを生かし、板材の組み合わせや道具の使い方などを、試行錯誤しながら工夫してつくっている。